

10/811 2170

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 6 月 5 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 1 6 0 6 8 5
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 3 - 1 6 0 6 8 5]

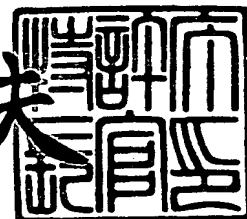
出 願 人 セイコーエプソン株式会社
Applicant(s):

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2 0 0 4 年 4 月 1 3 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出証番号 出証特 2 0 0 4 - 3 0 3 0 4 9 6

【書類名】 特許願

【整理番号】 14257701

【提出日】 平成15年 6月 5日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 B41J 2/175

【発明の名称】 液体容器

【請求項の数】 17

【発明者】

 【住所又は居所】 長野県諏訪市大和三丁目 3 番 5 号 セイコーエプソン株式会社内

 【氏名】 石 澤 卓

【発明者】

 【住所又は居所】 長野県諏訪市大和三丁目 3 番 5 号 セイコーエプソン株式会社内

 【氏名】 小 林 淳

【発明者】

 【住所又は居所】 長野県諏訪市大和三丁目 3 番 5 号 セイコーエプソン株式会社内

 【氏名】 品 田 聡

【発明者】

 【住所又は居所】 長野県諏訪市大和三丁目 3 番 5 号 セイコーエプソン株式会社内

 【氏名】 情 野 健 朗

【特許出願人】

 【識別番号】 000002369

 【住所又は居所】 東京都新宿区西新宿二丁目 4 番 1 号

 【氏名又は名称】 セイコーエプソン株式会社

【代理人】

【識別番号】 100075812

【弁理士】

【氏名又は名称】 吉 武 賢 次

【選任した代理人】

【識別番号】 100091982

【弁理士】

【氏名又は名称】 永 井 浩 之

【選任した代理人】

【識別番号】 100096895

【弁理士】

【氏名又は名称】 岡 田 淳 平

【選任した代理人】

【識別番号】 100117787

【弁理士】

【氏名又は名称】 勝 沼 宏 仁

【選任した代理人】

【識別番号】 100105795

【弁理士】

【氏名又は名称】 名 塚 聡

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 087654

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 液体容器

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

液体消費装置に供給される液体を内部に貯留する液体容器において、
前記液体を外部に送出するための液体送出口を有する容器本体と、
前記容器本体の内部に形成され、前記液体を貯留する第 1 貯留室と、
前記第 1 貯留室内の液体を加圧可能な第 1 加圧手段と、
前記容器本体の内部に形成され、前記第 1 貯留室及び前記液体送出口に連通する第 2 貯留室であって、前記第 1 貯留室内の圧力が前記液体を介して内部の前記液体に伝達される第 2 貯留室と、

前記第 2 貯留室内の前記液体を加圧して前記液体送出口から送出するための第 2 加圧手段と、

前記容器本体に設けられ、前記第 2 貯留室内の前記液体の圧力の変化に応じて出力信号が変化する検出手段と、を備え、

前記第 1 加圧手段によって前記第 1 貯留室内の前記液体に加えられる圧力を P_1 、前記第 2 加圧手段によって前記第 2 貯留室内の前記液体に加えられる圧力を P_2 、前記液体容器から前記液体消費装置に至る液体流路における圧力損失を P_3 とした場合、 $P_1 > P_2 > P_3$ であることを特徴とする液体容器。

【請求項 2】

前記第 2 貯留室内の液体の圧力を P とした場合、前記検出手段の出力信号は、 $P > P_2$ であるか、 $P < P_2$ であるかによって変化する請求項 1 記載の液体容器。

【請求項 3】

前記容器本体の内部の液体貯留量を記憶する記憶手段をさらに有し、前記記憶手段内に記憶されている前記液体貯留量に関するデータは、前記検出手段の出力信号が変化した時点で所定量に書き換えられる請求項 1 又は 2 に記載の液体容器。

【請求項 4】

前記第 1 加圧手段は、前記容器本体の内部に導入された加圧流体の圧力によって前記第 1 貯留室を加圧するように構成されている請求項 1 乃至 3 のいずれか一項に記載の液体容器。

【請求項 5】

前記第 1 加圧手段は、少なくとも一部が第 1 可撓性フィルムにより構成され、前記加圧流体の圧力を受けて体積変化可能な加圧室を有し、前記加圧室の体積変化によって前記第 1 貯留室が加圧されるように構成されている請求項 4 記載の液体容器。

【請求項 6】

前記第 1 可撓性フィルムは、前記容器本体の内部に導入された前記加圧流体に接触して変形する導入口側フィルム部材と、前記第 1 貯留室を形成する壁の少なくとも一部を構成し、前記導入口側フィルム部材の変形によって押圧されて変形する貯留室側フィルム部材と、を有する請求項 5 記載の液体容器。

【請求項 7】

前記第 1 可撓性フィルムの変形時の反力による圧力損失を P_4 、前記容器本体の内部に導入された前記加圧流体の圧力を P_1' とした場合、 $P_1' - P_4 = P_1 > P_2$ である請求項 5 又は 6 に記載の液体容器。

【請求項 8】

前記第 2 貯留室は、その内部の前記液体の圧力変化に応じて容積が変化するように構成されており、

前記検出手段の出力信号は、前記第 2 貯留室の容積変化に応じて変化する請求項 1 乃至 7 のいずれか一項に記載の液体容器。

【請求項 9】

前記第 2 加圧手段は、前記第 2 貯留室を形成する壁の少なくとも一部を構成する第 2 可撓性フィルムと、前記第 2 貯留室の容積を減少させる方向に向けて前記第 2 可撓性フィルムを押圧する押圧部材と、を有する請求項 8 記載の液体容器。

【請求項 10】

前記第 2 可撓性フィルムの変形時の反力による圧力損失を P_5 、前記押圧部材から前記第 2 可撓性フィルムに加えられる圧力を P_2' とした場合、 $P_1 > P_2$

' + P 5, P 2' - P 5 = P 2 > P である請求項 9 記載の液体容器。

【請求項 1 1】

前記第 2 加圧手段によって前記第 2 貯留室内の前記液体に加えられる圧力 P 2 は、前記第 2 貯留室の内部に貯留されている前記液体の量に応じて P 2 -MAX ~ P 2 -MIN の間で変化し、 $P 1 > P 2 -MAX > P 2 -MIN > P 3$ である請求項 1 乃至 1 0 のいずれか一項に記載の液体容器。

【請求項 1 2】

前記第 2 加圧手段は、前記第 2 貯留室内の前記液体を加圧するための力を発生させる圧縮バネを有する請求項 1 1 記載の液体容器。

【請求項 1 3】

前記液体消費装置の液体吐出部に対する前記液体容器の水頭差を P 7 とした場合、 $P 1 > P 2 > P 3 - P 7$ である請求項 1 乃至 1 2 のいずれか一項に記載の液体容器。

【請求項 1 4】

前記第 1 貯留室と前記第 2 貯留室とは狭隘な連通路を介して連通している請求項 1 乃至 1 3 のいずれか一項に記載の液体容器。

【請求項 1 5】

前記第 1 貯留室と前記第 2 貯留室とが、両室間に狭隘な流路を介在させることなく一体に形成されている請求項 1 乃至 1 3 のいずれか一項に記載の液体容器。

【請求項 1 6】

前記加圧流体は前記液体消費装置から供給される請求項 1 乃至 1 5 のいずれか一項に記載の液体容器。

【請求項 1 7】

前記液体消費装置はインクジェット式記録装置であり、
前記液体容器は、前記インクジェット式記録装置に着脱自在に装着されるインクカートリッジである請求項 1 乃至 1 6 のいずれか一項に記載の液体容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、インクジェット式記録装置等の液体消費装置に供給する液体を貯留する液体容器に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来の液体消費装置の代表例としては、噴射ヘッドから液滴を噴射する液体噴射装置があり、この液体噴射装置の代表例としては、画像記録用のインクジェット式記録ヘッドを備えたインクジェット式記録装置がある。その他の液体噴射装置としては、例えば液晶ディスプレイ等のカラーフィルタ製造に用いられる色材噴射ヘッドを備えた装置、有機ELディスプレイ、面発光ディスプレイ（FED）等の電極形成に用いられる電極材（導電ペースト）噴射ヘッドを備えた装置、バイオチップ製造に用いられる生体有機物噴射ヘッドを備えた装置、精密ピペットとしての試料噴射ヘッドを備えた装置等が挙げられる。

【0003】

液体噴射装置の代表例であるインクジェット式記録装置は、印刷時の騒音が比較的小さく、しかも小さなドットを高い密度で形成できるため、昨今においてはカラー印刷を含めた多くの印刷に使用されている。

【0004】

インクジェット式記録装置で代表される液体消費装置に対する液体の供給方式としては、液体を貯留した液体容器から液体消費装置に液体を供給する方式がある。この方式においては、液体容器内の液体が消費された時点でユーザーが簡単に液体容器を交換できるようにするために、液体消費装置に対して着脱可能に構成されたカートリッジとして液体容器を構成するのが一般的である。

【0005】

このようなカートリッジタイプの液体容器の従来例として、液体容器の内部に圧縮空気を送り込むことによって液体容器内の液体を加圧し、この圧力を利用して液体容器内の液体をカートリッジの外部に送出して液体消費装置に供給するタイプがある。このように液体容器内の液体を加圧して液体消費装置に供給することにより、例えば液体消費装置における液体吐出部が液体容器の位置よりも高い場合や、液体容器から液体吐出部までの流路抵抗が高い場合等においても、液体

容器から液体吐出部まで液体を安定して供給することができる。

【0 0 0 6】

下記特許文献 1 には、内部の可撓性バッグに圧縮空気を送り込むタイプのインクカートリッジ及びこれが装着されるインクジェットプリンタが記載されており、空気を加圧するための加圧ポンプに圧力センサが接続されている。そして、この圧力センサの出力に応じて加圧ポンプを制御することによりインクの供給が制御される。

【0 0 0 7】

【特許文献 1】

米国特許第 6, 2 9 0, 3 4 3 号明細書

【0 0 0 8】

【発明が解決しようとする課題】

上述したように特許文献 1 に記載のインクカートリッジ及びインクジェットプリンタにおいては、加圧ポンプの動作に基づいてインクの供給を制御するものである。このため、例えばインクジェットプリンタに対するインクカートリッジの装着が不良であり、加圧ポンプが作動しているにも関わらず実際にはインクがインクジェットプリンタに供給されていないような場合でも、加圧ポンプの作動を圧力センサが検出している限り、インクが供給されていると誤認してしまう。

【0 0 0 9】

本発明は、上述した事情に鑑みてなされたものであって、液体容器の内部に加圧流体が送り込まれることにより容器内部の液体が外部に送出されるように構成された液体容器において、容器内部の液体が加圧流体によって実際に加圧されているか否かを判定することができる液体容器を提供することを目的とする。

【0 0 1 0】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するために、本発明は、液体消費装置に供給される液体を内部に貯留する液体容器において、前記液体を外部に送出するための液体送出口を有する容器本体と、前記容器本体の内部に形成され、前記液体を貯留する第 1 貯留室と、前記第 1 貯留室内の液体を加圧可能な第 1 加圧手段と、前記容器本体の内

部に形成され、前記第 1 貯留室及び前記液体送出口に連通する第 2 貯留室であって、前記第 1 貯留室内の圧力が前記液体を介して内部の前記液体に伝達される第 2 貯留室と、前記第 2 貯留室内の前記液体を加圧して前記液体送出口から送出するための第 2 加圧手段と、前記容器本体に設けられ、前記第 2 貯留室内の前記液体の圧力の変化に応じて出力信号が変化する検出手段と、を備え、前記第 1 加圧手段によって前記第 1 貯留室内の前記液体に加えられる圧力を P_1 、前記第 2 加圧手段によって前記第 2 貯留室内の前記液体に加えられる圧力を P_2 、前記液体容器から前記液体消費装置に至る液体流路における圧力損失を P_3 とした場合、 $P_1 > P_2 > P_3$ であることを特徴とする。

【0011】

また、好ましくは、前記第 2 貯留室内の液体の圧力を P とした場合、前記検出手段の出力信号は、 $P > P_2$ であるか、 $P < P_2$ であるかによって変化する。

【0012】

また、好ましくは、前記容器本体の内部の液体貯留量を記憶する記憶手段をさらに有し、前記記憶手段内に記憶されている前記液体貯留量に関するデータは、前記検出手段の出力信号が変化した時点で所定量に書き換えられる。

【0013】

また、好ましくは、前記第 1 加圧手段は、前記容器本体の内部に導入された加圧流体の圧力によって前記第 1 貯留室を加圧するように構成されている。

【0014】

また、好ましくは、前記第 1 加圧手段は、少なくとも一部が第 1 可撓性フィルムにより構成され、前記加圧流体の圧力を受けて体積変化可能な加圧室を有し、前記加圧室の体積変化によって前記第 1 貯留室が加圧されるように構成されている。

【0015】

また、好ましくは、前記第 1 可撓性フィルムは、前記容器本体の内部に導入された前記加圧流体に接触して変形する導入口側フィルム部材と、前記第 1 貯留室を形成する壁の少なくとも一部を構成し、前記導入口側フィルム部材の変形によって押圧されて変形する貯留室側フィルム部材と、を有する。

【0016】

また、好ましくは、前記第1可撓性フィルムの変形時の反力による圧力損失を P_4 、前記容器本体の内部に導入された前記加圧流体の圧力を P_1' とした場合、 $P_1' - P_4 = P_1 > P_2$ である。

【0017】

また、好ましくは、前記第2貯留室は、その内部の前記液体の圧力変化に応じて容積が変化するように構成されており、前記検出手段の出力信号は、前記第2貯留室の容積変化に応じて変化する。

【0018】

また、好ましくは、前記第2加圧手段は、前記第2貯留室を形成する壁の少なくとも一部を構成する第2可撓性フィルムと、前記第2貯留室の容積を減少させる方向に向けて前記第2可撓性フィルムを押圧する押圧部材と、を有する。

【0019】

また、好ましくは、前記第2可撓性フィルムの変形時の反力による圧力損失を P_5 、前記押圧部材から前記第2可撓性フィルムに加えられる圧力を P_2' とした場合、 $P_1 > P_2' + P_5$ 、 $P_2' - P_5 = P_2 > P$ である。

【0020】

また、好ましくは、前記第2加圧手段によって前記第2貯留室内の前記液体に加えられる圧力 P_2 は、前記第2貯留室の内部に貯留されている前記液体の量に応じて $P_2\text{-MAX} \sim P_2\text{-MIN}$ の間で変化し、 $P_1 > P_2\text{-MAX} > P_2\text{-MIN} > P_3$ である。

【0021】

また、好ましくは、前記第2加圧手段は、前記第2貯留室内の前記液体を加圧するための力を発生させる圧縮バネを有する。

【0022】

また、好ましくは、前記液体消費装置の液体吐出部に対する前記液体容器の水頭差を P_7 とした場合、 $P_1 > P_2 > P_3 - P_7$ である。

【0023】

また、好ましくは、前記第1貯留室と前記第2貯留室とは狭隘な連通路を介し

て連通している。

【0024】

また、好ましくは、前記第1貯留室と前記第2貯留室とが、両室間に狭隘な流路を介在させることなく一体に形成されている。

【0025】

また、好ましくは、前記加圧流体は前記液体消費装置から供給される。

【0026】

また、好ましくは、前記液体消費装置はインクジェット式記録装置であり、前記液体容器は、前記インクジェット式記録装置に着脱自在に装着されるインクカートリッジである。

【0027】

【発明の実施の形態】

以下、本発明による液体容器の一実施形態として、インクジェット式記録装置用のインクカートリッジについて図面を参照して説明する。

【0028】

図1及び図2は本実施形態によるインクカートリッジ1の外観を示した図であり、図3及び図4はインクカートリッジ1の分解斜視図であり、図5はインクカートリッジ1の断面図及びその分解図である。

【0029】

インクカートリッジ1は容器本体2を有し、この容器本体2は、第1ケース部材2A、第2ケース部材2B、及び第3ケース部材2Cから構成されている。図3及び図4から分かるように第2ケース部材2Bの周縁部には複数の熱カシメリブ3が形成されており、これらの熱カシメリブ3は、第1ケース部材2A及び第3ケース部材2Cに形成された複数の貫通孔4、5に挿入され、熱カシメされる。これにより、第2ケース部材2Bと第3ケース部材2Cとの間に第1ケース部材2Aが挟み込まれ、これら3つのケース部材2A、2B、2Cが一体化される。

【0030】

図1(c)に示されているように、容器本体2には、容器本体2の内部のイン

クを外部に送出するためのインク送出口 6 が設けられている。図 3 及び図 4 から分かるようにインク送出口 6 は第 1 ケース部材 2 A に形成されている。

【0031】

また、インク送出口 6 が形成された面と同じ面に、圧縮空気を容器本体 2 の内部に導入するための圧縮空気導入口 7 が形成されている。この圧縮空気導入口 7 は第 2 ケース部材 2 B に形成されている。

【0032】

さらに、インク送出口 6 が形成された面と同じ面に、インクカートリッジ 1 の製造時にインクを充填するためのインク注入口 8 が形成されている。このインク注入口 8 は第 1 ケース部材 2 A に形成されている。

【0033】

また、インク送出口 6、圧縮空気導入口 7、及びインク注入口 8 が形成された面と同じ面を含む容器本体 2 の一隅部には、誤装着防止ブロック 9 が設けられている。この誤装着防止ブロック 9 は、インクカートリッジ 1 をインクジェット式記録装置に装着する際に、所定の位置に所定のインク種のインクカートリッジ 1 が正しく装着されるようにするために、正しいインク種のインクカートリッジ 1 以外は装着できないようにする形状が付与されたものである。

【0034】

図 3 及び図 4 に示したように、第 3 ケース部材 2 C と第 1 ケース部材 2 A との間には底フィルム 10 が設けられている。この底フィルム 10 は、第 1 ケース部材 2 A に形成されたインク室用貫通孔 11 及びセンサ室用貫通孔 12 の底面側の各開口を液密に封止している。

【0035】

また、第 1 ケース部材 2 A と第 2 ケース部材 2 B との間には、可撓性のインク室用フィルム 13 A、可撓性のセンサ室用フィルム 13 B、及び可撓性の加圧室用フィルム 14 が設けられている。インク室用フィルム 13 A とセンサ室用フィルム 13 B とは一枚のフィルムによって一体に形成されている。インク室用フィルム 13 A 及びセンサ室用フィルム 13 B は、第 1 ケース部材 2 A に形成されたインク室用貫通孔 11 及びセンサ室用貫通孔 12 の上面側の各開口を液密に封止

している。また、加圧室用フィルム 14 は、第 2 ケース部材 2 B に形成された加圧室用凹部 15 の開口を気密に封止している。

【0036】

次に、インクカートリッジ 1 の内部に配置された検出手段 16 について図 6 乃至図 8 を参照して説明する。

【0037】

検出手段 16 は、圧縮空気の圧力が実際に加えられているか否かによって変化する容器本体 2 内のインクの圧力の変化に応じて出力信号が変化するものである。

【0038】

この検出手段 16 は、第 1 ケース部材 2 A に形成されたセンサ室用貫通孔 12 の内部に移動自在に挿入可能な外径形状を有するバネ座部材 17 を有し、このバネ座部材 17 は、その貫通孔 17 a を介して、第 2 ケース部材 2 B に形成されたガイド用突起 18 に移動可能に装着されている。バネ座部材 17 と第 2 ケース部材 2 B との間には圧縮バネ 19 が設けられており、この圧縮バネ 19 のバネ力によってバネ座部材 17 は第 2 ケース部材 2 B から遠ざかる方向に付勢されている。

【0039】

バネ座部材 17 及び圧縮バネ 19 は、検出手段 16 の一部を構成すると同時に、後述するセンサ室 42 (図 12) の内部のインクを加圧するための加圧手段を構成している。このように圧縮バネ 19 でバネ座部材 17 を付勢することによって、簡単な機構で加圧手段を構成することができる。

【0040】

また、検出手段 16 は、容器本体 2 内のインクに対して圧縮空気から加えられた圧力によって開閉する接点式スイッチ 20 を備えている。この接点式スイッチ 20 は、容器本体 2 内のインクに対して圧縮空気から加えられた圧力によって変位する可動側端子 20 A と、可動側端子 20 A に対向配置された固定側端子 20 B とから成る。

【0041】

第2ケース部材2Bの内壁面には、接点式スイッチ20に隣接してIC基板21が配置されており、このIC基板21は固定リブ22によって熱カシメにて固定されている。IC基板21は、可動側端子20A及び固定側端子20Bが接触する各接点23を有しており、板バネ部材にて形成された可動側端子20A及び固定側端子20Bがそのバネ力によって各接点23に圧接されている。

【0042】

また、IC基板21はアンテナ部材24を備えており、このアンテナ部材24によってインクジェット式記録装置とIC基板21との間で非接触にて情報が伝達される。

【0043】

なお、第2ケース部材2Bに形成された圧縮空気導入口7は、空気流路25を介して加圧室用凹部15に連通している。

【0044】

また、図6において符号26はフィルム溶着部を示し、このフィルム溶着部26に加圧室用フィルム14が気密に接合されている。

【0045】

第2ケース部材2B、検出手段16、加圧室用フィルム14等によって加圧ユニットが構成されている。

【0046】

図9及び図10は第1ケース部材2Aを拡大して示した斜視図であり、図9に示したように第1ケース部材2Aには誤装着防止ブロック9を固定するための固定穴27が穿設されている。図10に示したようにインク送出口6にはシールゴム28が装着されており、インク送出口6の内側には弁体29が挿入されている。

【0047】

また、インク送出口6とセンサ室用貫通孔12とを連絡する通路の途中には、フィルタ30及び逆止弁31が設けられている。また、第1ケース部材2Aに形成されたインク注入口8は、インク注入流路32を介してインク室用貫通孔11に連通している。また、インク室用貫通孔11とセンサ室用貫通孔12とが、狭

隘な連通路 35 によって連通している。

【0048】

なお、図 9 において符号 33A、33B はフィルム溶着部を示し、フィルム溶着部 33A にはインク室用フィルム 13A が、フィルム溶着部 33B にはセンサ室用フィルム 13B が、それぞれ液密に接合される。

【0049】

また、図 10 において符号 36A、36B はフィルム溶着部を示し、フィルム溶着部 36A、36B には底フィルム 10 が液密に接合される。

【0050】

また、図 10 において符号 34 はシール部を示し、このシール部 34 において、容器本体 2 内にインクを充填した後にインク注入流路 32 が封止される。

【0051】

第 1 ケース部材 2A、インク室用フィルム 13A、センサ室用フィルム 13B 等によってタンクユニットが構成されている。

【0052】

図 11 は、インクカートリッジ 1 をインクジェット式記録装置 100 に装着した状態を示したブロック図である。図 11 に示したように、インクジェット式記録装置 100 の加圧ポンプ 101 からの圧縮空気が、圧縮空気導入口 7 を介してインクカートリッジ 1 の内部に導入される。これにより、インクカートリッジ 1 のインク送出口 6 からインクが送出され、インクジェット式記録装置 100 の記録ヘッド 102 にインクが供給される。圧縮空気をインクジェット式記録装置 100 から供給することにより、インクカートリッジ 1 を小型化できると共に製造コストを低減することができる。

【0053】

インクカートリッジ 1 の内部に設けられたアンテナ 24 に隣接して、インクジェット式記録装置 100 側にもアンテナ 103 が設けられている。インクカートリッジ 1 の内部に設けられた検出手段 16 の出力信号は、インクカートリッジ 1 内のアンテナ 24 からインクジェット式記録装置 100 側のアンテナ 103 へと非接触にて伝達される。アンテナ 103 で受信された検出手段 16 の検出信号は

、インクジェット式記録装置 100 の制御部 104 に送られる。制御部 104 は、加圧ポンプ 101、記録ヘッド 102、及びキャリッジ等の駆動機構 105 を制御する。

【0054】

また、インクカートリッジ 1 の内部に設けられた IC 基板 21 は、インクカートリッジ 1 内のインクに関する情報を記憶する機能を有しており、インクカートリッジ 1 側のアンテナ 24 からインクジェット式記録装置 100 側のアンテナ 103 に向けて、検出手段 16 の検出信号と共に IC 基板 21 に記憶されたインクに関する情報が伝達される。IC 基板 21 に記憶される情報としては、例えばインクカートリッジ 1 内のインクの残量に関する情報がある。

【0055】

なお、本実施形態においてはアンテナ 24、103 による非接触方式にて検出手段 16 の出力信号をインクジェット式記録装置 100 に伝達するようにしたが、インクカートリッジ 1 に設けた電気接点とインクジェット式記録装置 100 側に設けた電気接点とを接触させる接触方式にて信号を伝達するようにしても良い。

【0056】

次に、接点式スイッチ 20 を含む検出手段 16 の検出動作について図 12 乃至図 16 を参照して説明する。

【0057】

図 12 (a)、(b)、(c) は、検出手段 16 の検出動作を説明するためにインクカートリッジ 1 を模式的に示した断面図である。図 12 から分かるように、インクカートリッジ 1 の容器本体 2 の内部は、インクを貯留するインク貯留室 40 と、インク貯留室 40 の上方に形成されたインク加圧室 41 と、インク貯留室 40 とインク送出口 6 とを接続する流路の途中に設けられたセンサ室 42 と、が形成されている。

【0058】

インク貯留室 40 を形成する壁の一部は可撓性のインク室用フィルム 13A から成り、センサ室 42 を形成する壁の一部は可撓性のセンサ室用フィルム 13B

から成り、インク加圧室 41 を形成する壁の一部は可撓性の加圧室用フィルム 14 から成る。

【0059】

インク加圧室 41 は加圧室用フィルム 14 によって気密に封止されているので、バネ座部材 17、圧縮バネ 19 等が配置された空間 43 には、インクカートリッジ 1 の内部に導入された圧縮空気の圧力は伝達されない。

【0060】

図 12 (a) 及び図 13 (a) は、インク貯留室 40 内にインクが十分に充填されており且つインク加圧室 41 に圧縮空気が導入されていない状態を示している。この状態においては、インク貯留室 40 内のインクには圧縮空気の圧力が加えられていないので、インク貯留室 40 内は大気圧である。

【0061】

従って、バネ座部材 17 は圧縮バネ 19 のバネ力によって容器本体 2 の内壁底面に押し付けられており、この状態においては図 13 (a) から分かるように、接点式スイッチ 20 の可動側端子 20A と固定側端子 20B とが接触している。つまり、この状態においては接点式スイッチ 20 はオンの状態（導通状態）にある。

【0062】

図 12 (b) 及び図 13 (b) は、インク貯留室 40 内にインクが十分に充填されているインクカートリッジ 1 において、加圧ポンプ 101 によって圧縮空気を圧縮空気導入口 7 からインク加圧室 41 の内部に導入した状態を示している。

【0063】

本実施形態においては、圧縮空気によってインク貯留室 40 内のインクに実際に加えられる圧力を P_1 、圧縮バネ 19 のバネ力によってセンサ室 42 内のインクに実際に加えられる圧力を P_2 とした場合、 $P_1 > P_2$ となるように圧縮空気の圧力及び圧縮バネ 19 のバネ力が設定されている。

【0064】

より詳細には、圧縮バネ 19 のバネ力はその圧縮量によって変化するので、圧縮バネ 19 のバネ力によってセンサ室 42 内のインクに加えられる圧力 P_2 は、

センサ室 42 の内部に貯留されているインクの量に応じて $P2-MAX \sim P2-MIN$ の間で変化する。そこで、本実施形態においては、 $P1 > P2-MAX > P2-MIN$ となるように圧縮空気の圧力及び圧縮バネ 19 のバネ力が設定されている。

【0065】

このように圧縮バネ 19 による最大圧力 $P2-MAX$ を圧縮空気による圧力 $P1$ よりも小さくすることにより、検出手段 16 を確実に動作させることができる。

【0066】

また、本実施形態においては、インク室用フィルム 13A 及び加圧室用フィルム 14 の変形時の反力による圧力損失を $P4$ 、圧縮空気導入口 7 からインク加圧室 41 に導入された圧縮空気の圧力を $P1'$ とした場合、 $P1' - P4 = P1 > P2$ となるように圧縮空気の圧力及び圧縮バネ 19 のバネ力が設定されている。これにより、インク室用フィルム 13A 及び加圧室用フィルム 14 の変形時に反力が発生した場合でも、検出手段 16 を確実に動作させることができる。

【0067】

図 12 (b) 及び図 13 (b) に示したように、インク加圧室 41 に導入された圧縮空気の圧力によって加圧室用フィルム 14 がインク貯留室 40 側に押されて変形し、加圧室用フィルム 14 の変形によってインク室用フィルム 13A がインク貯留室 40 側に押されて変形する。これにより、インク貯留室 40 内のインクが加圧され、加圧されたインクは連通路 35 を介してセンサ室 42 に流入する。

【0068】

そして、センサ室 42 に流入したインクの圧力によってセンサ室用フィルム 13B が上方に向かって変形し、圧縮バネ 19 のバネ力に抗してバネ座部材 17 が押し上げられる。すると、図 13 (b) から分かるように、押し上げられたバネ座部材 17 によって接点式スイッチ 20 の可動側端子 20A が押し上げられる。これにより、可動側端子 20A と固定側端子 20B とが離れて非接触状態となり、接点式スイッチ 20 がオフの状態（非導通状態）になる。

【0069】

即ち、本実施形態のインクカートリッジ 1 の検出手段 16 においては、インク

貯留室 40 内のインクが圧縮空気により加圧され、加圧されたインク貯留室 40 内のインクの圧力がセンサ室 42 内のインクに伝達される。このとき、センサ室 42 の内部のインクの圧力 P が、所定値、即ち圧縮バネ 19 のバネ力によってセンサ室 42 内のインクに加えられる圧力 P_2 よりも高い場合には、バネ座部材 17 が上限位置まで押し上げられて接点式スイッチ 20 がオフの状態になる。

【0070】

なお、本実施形態においては、センサ室 42 の容積の増大によって圧縮バネ 19 のバネ力に抗して変位するバネ座部材 17 が、その変位可能な範囲の限界点（上限位置）付近に達した時に可動側端子 20A に接触して可動側端子 20A が変位するように構成されている。

【0071】

また、本実施形態においては、センサ室用フィルム 13B の変形時の反力による圧力損失を P_5 、バネ座部材 17 からセンサ室用フィルム 13B に加えられる圧力を P_2' とした場合、 $P_1 > P_2' + P_5$ 、 $P_2' - P_5 = P_2 > P$ となるように構成されている。これにより、センサ室用フィルム 13B の変形時に反力が発生した場合でも、検出手段 16 を確実に動作させることができる。

【0072】

また、本実施形態においては、インクカートリッジ 1 からインクジェット式記録装置 100 に至るインク流路における圧力損失を P_3 とした場合、 $P_1 > P_2 > P_3$ となるように構成されている。より詳細には、圧縮バネ 19 による最小圧力 $P_2\text{-MIN}$ がインク流路の圧力損失 P_3 よりも大きくなるように構成されている。これにより、圧縮バネ 19 のバネ力によって、センサ室 42 内に存在するインクの略全部をインク送出口 6 から確実に送出することができる。

【0073】

なお、センサ室 42 を加圧するために必要な圧力は、インク貯留室 40 を加圧するために必要な圧力よりも小さくて済むため、本実施形態のように圧縮バネ 19 によってこの加圧力を発生させるようにすることで、インクカートリッジ 1 を小型化し且つ製造コストを低減することができる。

【0074】

さらに、本実施形態においては、インクジェット式記録装置 100 の記録ヘッド 102 に対するインクカートリッジ 1 の水頭差を P_7 とした場合、 $P_1 > P_2 > P_3 - P_7$ となるように構成されている。これにより、記録ヘッド 102 がインクカートリッジ 1 よりも高い位置にある場合でも、インクカートリッジ 1 から記録ヘッド 102 へ確実にインクを供給することができる。

【0075】

インクジェット式記録装置 100 においてインクが消費されることにより、インク貯留室 40 内のインクの量が減少してインク貯留室 40 の容積が徐々に減少する。このとき、インク貯留室 40 内のインク残量が所定値以上であれば、インク貯留室 40 内のインクに加えられた圧縮空気の圧力がインクを介してセンサ室 42 内のインクに伝達される。従って、この状態においては、圧縮バネ 19 のバネ力に抗してバネ座部材 17 がその上限位置まで押し上げられた状態が維持され、接点式スイッチ 20 のオフ状態が維持される。

【0076】

インク貯留室 40 内のインクがさらに消費され、図 12 (c) に示したようにインク貯留室 40 内にインクがほとんど存在しない状態になると、圧縮空気の圧力がセンサ室 42 内のインクに伝達されなくなる。すると、センサ室 42 内のインクの消費に伴ってバネ座部材 17 が降下し、図 13 (c) に示したようにバネ座部材 17 による可動側端子 20 A の押し上げ状態が解除される。これにより、可動側端子 20 A が固定側端子 20 B に接触した状態となり、接点式スイッチ 20 がオフ状態からオン状態に切り替わる。

【0077】

即ち、圧縮空気の圧力が容器本体 2 内のインクに伝達されず、容器本体 2 内のインクの圧力が所定値未満の場合には、接点式スイッチ 20 はオフの状態になる。

【0078】

なお、本実施形態においては、上昇したバネ座部材 17 によって可動側端子 20 A が押し上げられて接点式スイッチ 20 がオン状態（導通状態）からオフ状態（非導通状態）に切り替わるようにしたが、一変形例としては、可動側端子 20

A及び固定側端子20Bの配置を上下逆転させると共に、非加圧状態においては可動側端子20Aと固定側端子20Bとが非接触状態になるようにして、加圧時に上昇したバネ座部材17によって可動側端子20Aが押し上げられて固定側端子20Bに接触するようにしても良い。

【0079】

図14及び図16は、インクカートリッジ1内のインクの消費に伴って変化するインク供給圧力を示しており、横軸はインクカートリッジ1内のインク残量である。ここで「インク供給圧力」とは、インクカートリッジ1のインク送出口6から送出されるインクの圧力である。

【0080】

なお、図14は、インク室用フィルム13A及びセンサ室用フィルム13Bの変形時の反力を考慮しない場合のグラフであり、図16は、インク室用フィルム13A及びセンサ室用フィルム13Bの変形時の反力を考慮した場合のグラフである。

【0081】

図14から分かるように、インクカートリッジ1内のインクが満タンの状態（初期状態）においては、圧縮空気の圧力P1がそのままインク供給圧力になる。そして、インク貯留室40内のインク残量が所定値以上である限り、インク供給圧力は圧縮空気の圧力P1に維持される。

【0082】

そして、インク貯留室40内のインク残量が所定値を下回った状態（本実施形態ではインク貯留室40内のインクがほとんど無くなった状態）になると、圧縮空気の圧力がインクカートリッジ1内のインクに伝達されなくなる。この状態においては、インク供給圧力は圧縮バネ19のバネ力によって決定されることになる。

【0083】

即ち、インク貯留室40内のインク残量が所定値まで低下した時点、即ちインクニアエンド（N/E）の時点においては、最大限に圧縮された状態にある圧縮バネ19による最大バネ圧力P2-MAXがインク供給圧力となる。

【0084】

そして、センサ室 42 内のインクの消費が進むにつれて圧縮バネ 19 の圧縮量が小さくなり、バネ座部材 17 が容器本体 2 の内部底面に達した時点のバネ圧力（最小バネ圧力）P2-MINまでバネ圧力が減少する。この時点ではセンサ室 42 内にもインクがほとんど残留しておらず、インクカートリッジ 1 はインクエンド（I/E）の状態になる。

【0085】

また、図 16 から分かるように、初期状態においては圧縮空気の圧力 P1 がほぼそのままインク供給圧力になる。インクの消費が進行し、インク貯留室 40 内のインクが減少すると、インク室用フィルム 13A 及び加圧室用フィルム 14 の反力が徐々に大きくなり、インク供給圧力は徐々に減少する。

【0086】

そして、インク貯留室 40 内のインク残量が所定値を下回った状態になると、圧縮空気の圧力がインクカートリッジ 1 内のインクに伝達されなくなる。この状態においては、インク供給圧力は圧縮バネ 19 及びセンサ室用フィルム 13B の反力によって決定されることになる。

【0087】

なお、図 14 及び図 16 中の圧力 P3 は、インクカートリッジ 1 から記録ヘッド 102 に至るインク流路の圧力損失を示している。圧縮バネ 19 の最小バネ圧力 P2-MIN をインク流路における圧力損失 P3 よりも大きくなるように設定することによって、センサ室 42 内のインクを使い切ることができる。

【0088】

また、図 15 は、インクの有無及び加圧ポンプの作動／停止によって検出手段 16 の出力信号がどのように変化するかを示した表である。なお、図 15 中の「インク有り」とは、インク貯留室 40 内のインク残量が所定値以上の場合を示し、「インク無し」とは、インク貯留室 40 内のインク残量が所定値未満の場合を示す。

【0089】

図 15 から分かるように、インク有りの状態で加圧ポンプ 101 が作動してい

る場合には、検出手段 1 6 が O F F の状態になる。一方、加圧ポンプ 1 0 1 が作動している場合でも、インク無しの状態になると、検出手段 1 6 は O N の状態になる。また、加圧ポンプ 1 0 1 が停止している場合には、インク貯留室 4 0 内のインクの有無に関わらず、検出手段 1 6 は O N の状態になる。

【 0 0 9 0 】

そして、本実施形態によるインクカートリッジ 1 においては、上述した検出手段 1 6 の動作特性を利用することにより、以下に説明するように、インクジェット式記録装置 1 0 0 に対するインクカートリッジ 1 の装着不良（差し込み不足等）を検出し、或いは検出手段 1 6 の故障を検知することができる。

【 0 0 9 1 】

即ち、インク貯留室 4 0 内のインク残量が所定値以上の場合（例えば新品のインクカートリッジ 1 を装着する場合）に、加圧ポンプ 1 0 1 を作動させたにも関わらず検出手段 1 6 が O F F にならない時は、インクカートリッジ 1 の装着不良或いは検出手段 1 6 の故障が考えられる。この場合には、例えばユーザーに対してインクカートリッジ 1 の装着状態を確認するように促すメッセージが表示される。また、加圧ポンプ 1 0 1 が停止状態であるにも関わらず検出手段 1 6 が O F F になっている場合には、検出手段 1 6 の故障と判定される。

【 0 0 9 2 】

以上述べたように本実施形態によるインクカートリッジ 1 においては、インク貯留室 4 0 内のインクに対して圧縮空気から実際に加えられている圧力によって検出手段 1 6 が動作するので、インクカートリッジ 1 からのインクの送出の有無を確実に判定することができる。

【 0 0 9 3 】

また、本実施形態によるインクカートリッジ 1 においては、インク貯留室 4 0 内のインクがほとんど無くなり且つセンサ室 4 2 にはインクが充填されている状態に至った時点、即ちインクニアエンド（N/E）になった時点を検出することができる。このため、印刷の途中でインクエンド（I/E）になって記録紙を無駄にってしまうといった事態を回避することができる。

【 0 0 9 4 】

また、本実施形態によるインクカートリッジ1においては、インクニアエンド（N/E）の時点からインクエンド（I/E）の時点までに供給できるインクの量は、インクニアエンド（N/E）の時点におけるセンサ室42内のインクの量によって決まる。そして、インクニアエンド（N/E）の時点におけるセンサ室42内の所定のインク量は設計段階において決まるので、このインク量をインクカートリッジ1のIC基板21に記憶させておき、検出手段16がインクニアエンド（N/E）を検出した時点でインク残量を前記所定のインク量に書き換えることにより、インクエンド（I/E）の時点を正確に判定することが可能となる。このため、インクカートリッジ1の内部にインクがまだ十分に残っているのにインクエンド（I/E）と判定してインクを無駄にしまったり、或いは逆に、実際にはほぼインクエンド（I/E）に達しているのにまだ十分にインクが残っていると誤認し、印刷の途中でインクエンド（I/E）となって記録紙を無駄にってしまうといった事態を回避することができる。

【0095】

また、インク満タンの時点からインクニアエンド（N/E）の時点までに消費されるインク量も設計段階において決まるので、このインク量をインクカートリッジ1のIC基板21に記憶させておくことにより、インクニアエンド（N/E）になった時点で、それまでのインク滴の吐出回数に基づいて、インク滴の単位重量に関する情報を補正することができる。これにより、インクニアエンド（N/E）以降におけるインク消費量の計算の精度を高めることが可能であり、インクエンド（I/E）の時点をより一層正確に判定することができる。

【0096】

また、本実施形態においては、圧縮空気によってインクカートリッジ1内のインクが加圧されているか否かを検出する信号と、インクカートリッジ1内のインク残量がニアエンド（N/E）になった時点を検出する信号とが、検出手段16から出力される同一の信号であるから、検出のための機構を簡素化することができる。

【0097】

さらに、本実施形態においては、圧縮バネ19の最小バネ圧力P2-MINをイン

ク流路における圧力損失 P_3 よりも大きくなるように設定することによって、センサ室 4 2 内のインクを使い切ることができる。

【0 0 9 8】

図 1 7 (a)、(b)、(c) は、上述した実施形態の一変形例を示しており、図 1 7 (a)、(b)、(c) のそれぞれの状態は図 1 2 (a)、(b)、(c) のそれぞれの状態に対応している。

【0 0 9 9】

図 1 7 に示したように本変形例によるインクカートリッジにおいては、インク貯留室 4 0 とセンサ室 4 2 とが、両室間に狭隘な流路を介在させることなく一体に形成されている。また、インク室用フィルム 1 3 A とセンサ室用フィルム 1 3 B とが別体として構成されており、インク室用フィルム 1 3 A に対する押圧方向と、センサ室用フィルム 1 3 B に対する押圧方向とが対向するように両フィルム 1 3 A、1 3 B が配置されている。

【0 1 0 0】

本変形例においても、上述した実施形態と同様の効果を得ることができる。

【0 1 0 1】

【発明の効果】

以上述べたように本発明によれば、液体容器の内部に加圧流体が送り込まれることにより容器内部の液体が外部に送出されるように構成された液体容器において、液体容器の内部の液体が加圧流体によって実際に加圧されているか否かを判定することができると共に、第 2 貯留室内の液体を使い切ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明による液体容器の一実施形態としてのインクカートリッジの外観を示した図であり、(a) は平面図、(b) は側面図、(c) は正面図、(d) は背面図。

【図 2】

(a) は図 1 に示したインクカートリッジの底面図、(b) は側面図。

【図 3】

図 1 に示したインクカートリッジの分解斜視図。

【図 4】

図 1 に示したインクカートリッジの分解斜視図であり、図 3 を上下逆転させた図。

【図 5】

(a) は図 1 に示したインクカートリッジの断面図、(b) は (a) の分解図。

【図 6】

図 1 に示したインクカートリッジの加圧ユニットを示した斜視図。

【図 7】

図 1 に示したインクカートリッジの加圧ユニットを示した平面図。

【図 8】

図 1 に示したインクカートリッジの加圧ユニットを示した分解斜視図。

【図 9】

図 1 に示したインクカートリッジのタンクユニットを示した斜視図。

【図 1 0】

図 1 に示したインクカートリッジのタンクユニットを示した斜視図であり、図 9 を上下逆転させた図。

【図 1 1】

図 1 に示したインクカートリッジをインクジェット式記録装置に装着した状態を示したブロック図。

【図 1 2】

図 1 に示したインクカートリッジの検出手段の検出動作を説明するためにインクカートリッジを模式的に示した断面図であり、(a) はインク貯留室にインクが十分に充填されており且つインク加圧室に圧縮空気が導入されていない状態を示し、(b) はインク貯留室にインクが十分に充填されているインクカートリッジに対して圧縮空気をインク加圧室に導入した状態を示し、(c) はインク貯留室にほとんどインクが存在しない状態を示す。

【図 1 3】

(a)、(b)、(c)はそれぞれ図12(a)、(b)、(c)の検出手段の部分を拡大して示した図である。

【図14】

図1に示したインクカートリッジ内のインクの消費に伴って変化するインク供給圧力を示した図であり、インク室用フィルム及び加圧室用フィルムの変形時の反力を考慮しない場合を示している。

【図15】

図1に示したインクカートリッジにおいて、インクの有無及び加圧ポンプの作動/停止によって検出手段の出力信号がどのように変化するかを示した図。

【図16】

図1に示したインクカートリッジ内のインクの消費に伴って変化するインク供給圧力を示した図であり、インク室用フィルム及び加圧室用フィルムの変形時の反力を考慮した場合を示している。

【図17】

図1等示した実施形態の一変形例によるインクカートリッジを模式的に示した断面図であり、(a)はインク貯留室にインクが十分に充填されており且つインク加圧室に圧縮空気が導入されていない状態を示し、(b)はインク貯留室にインクが十分に充填されているインクカートリッジに対して圧縮空気をインク加圧室に導入した状態を示し、(c)はインク貯留室にほとんどインクが存在しない状態を示す。

【符号の説明】

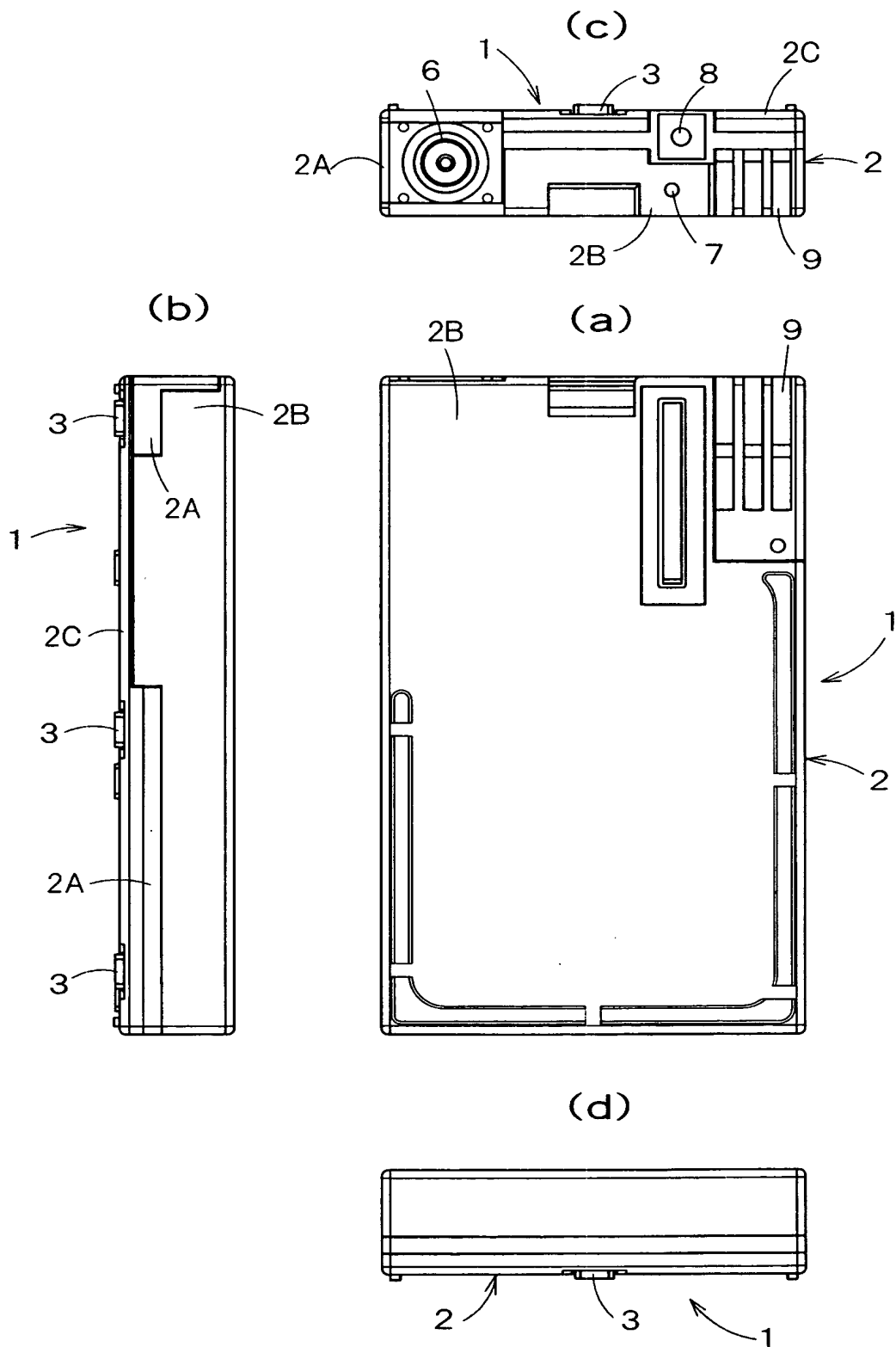
- 1 インクカートリッジ
- 2 容器本体
 - 2A 第1ケース部材
 - 2B 第2ケース部材
 - 2C 第3ケース部材
- 6 インク送出口
- 7 圧縮空気導入口
- 8 インク注入口



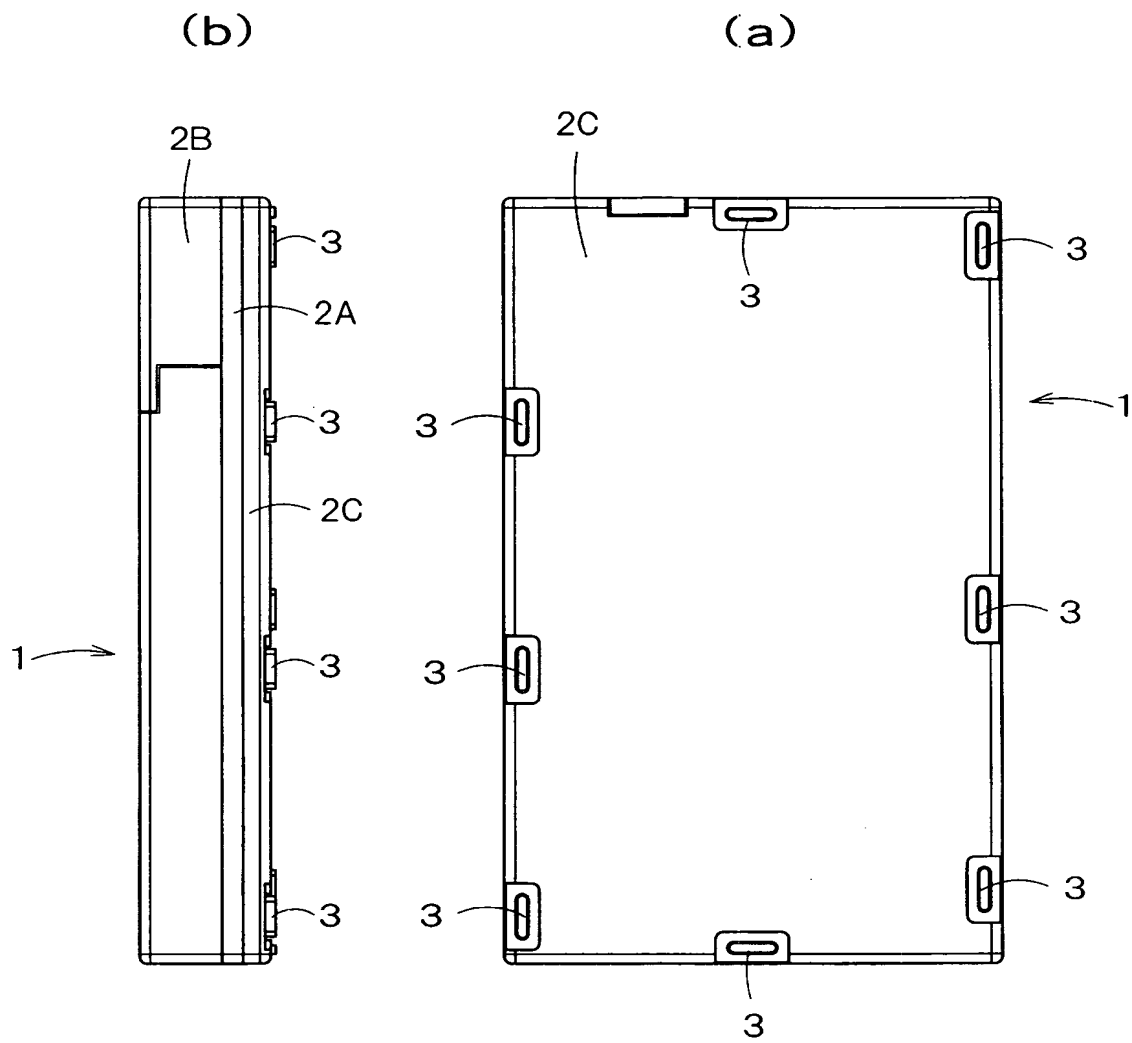
- 9 誤装着防止ブロック
- 1 0 底フィルム
- 1 3 A インク室用フィルム
- 1 3 B センサ室用フィルム
- 1 4 加圧室用フィルム
- 1 6 検出手段
- 1 7 バネ座部材
- 1 9 圧縮バネ
- 2 0 接点式スイッチ
- 2 0 A 可動側端子
- 2 0 B 固定側端子
- 2 1 I C 基板
- 2 4 アンテナ
- 4 0 インク貯留室
- 4 1 インク加圧室
- 4 2 センサ室

【書類名】 図面

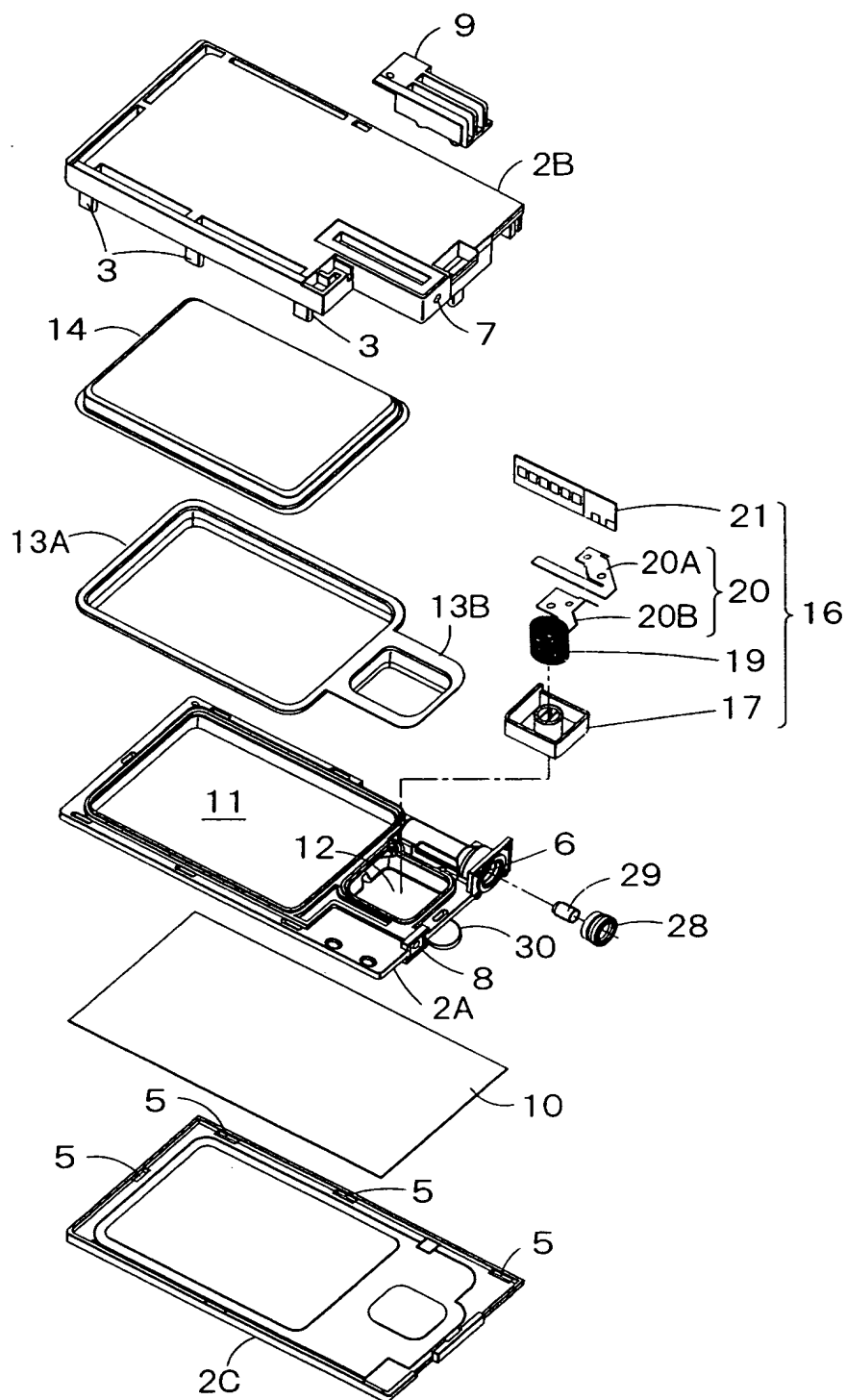
【図 1】



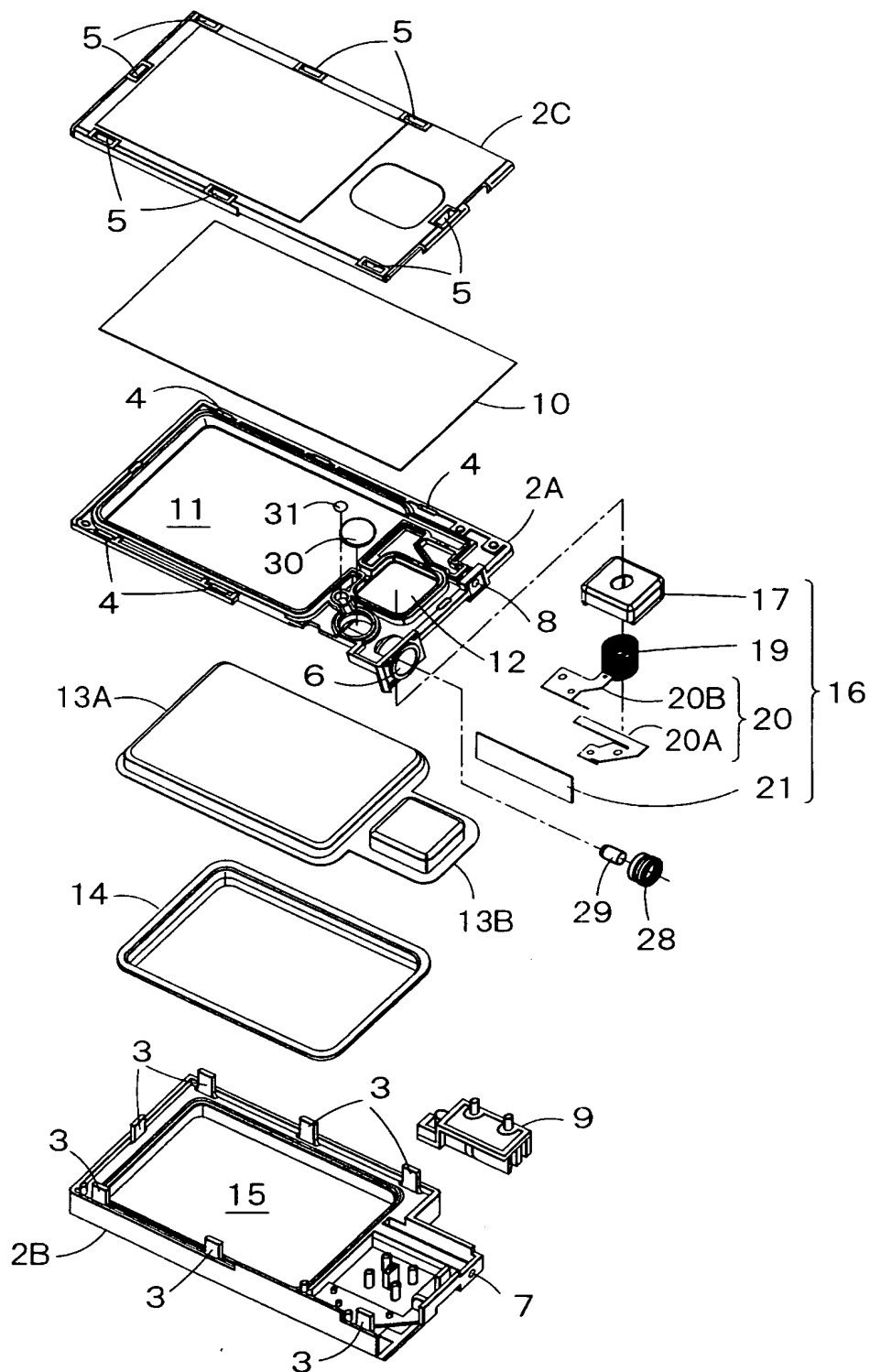
【図 2】



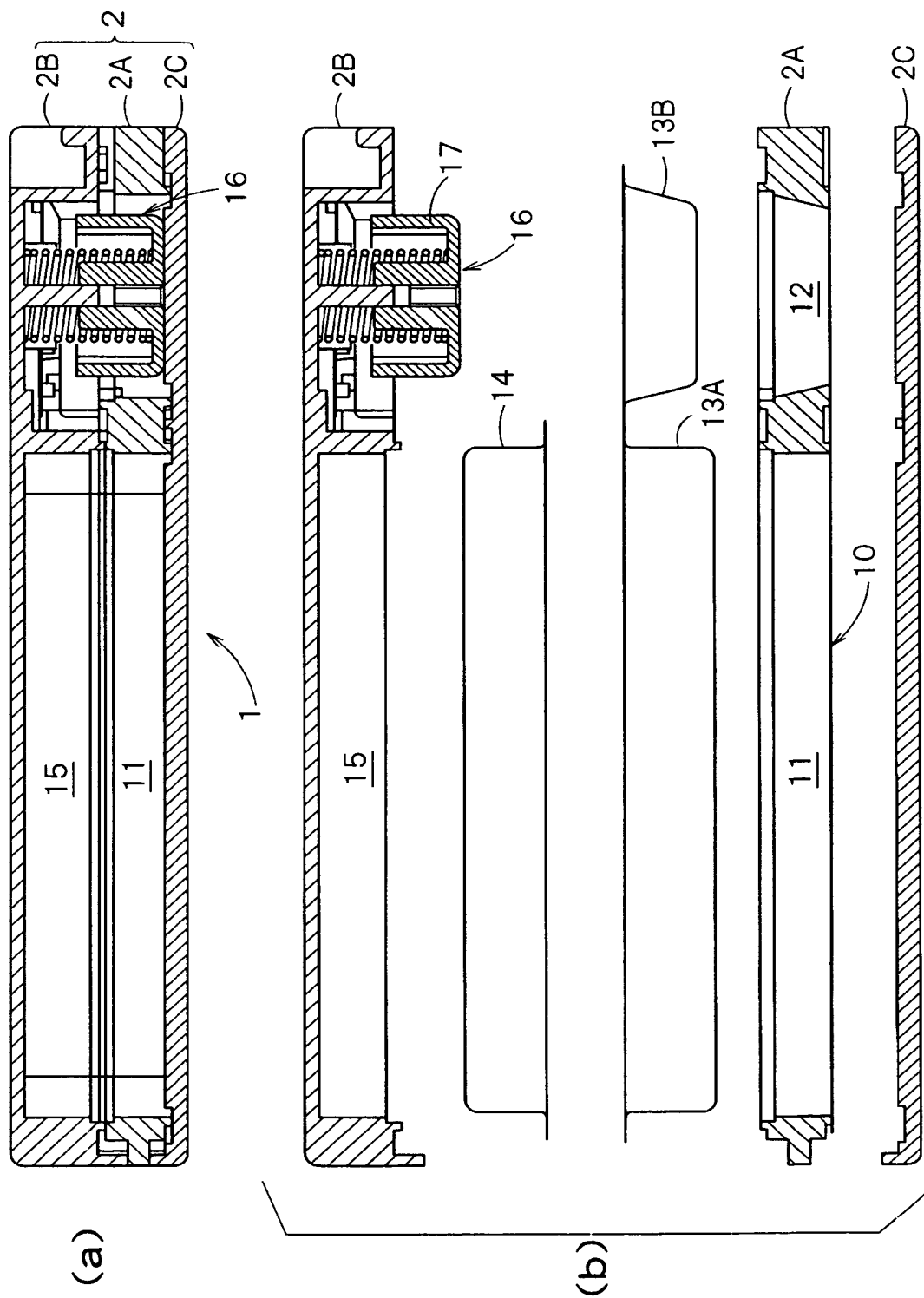
【図 3】



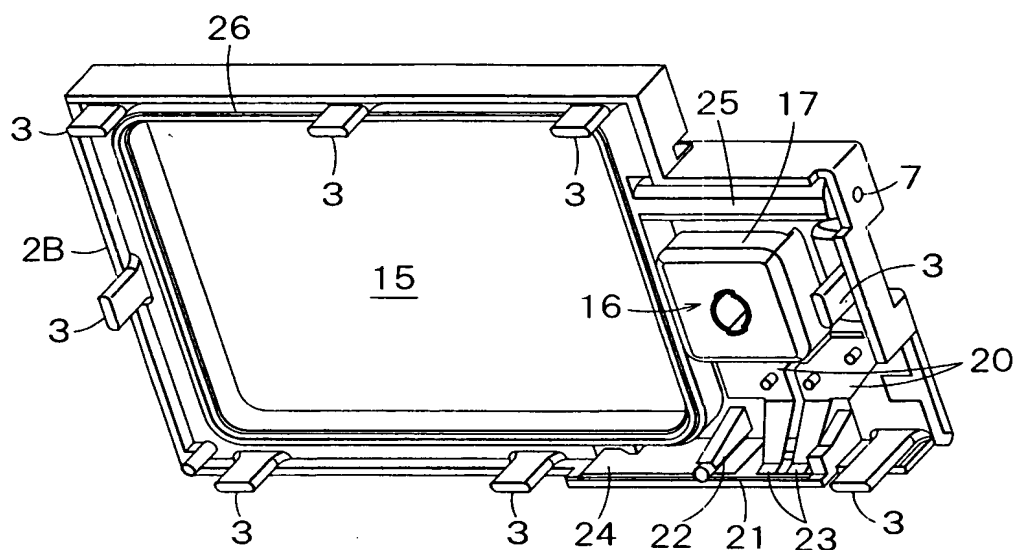
【図 4】



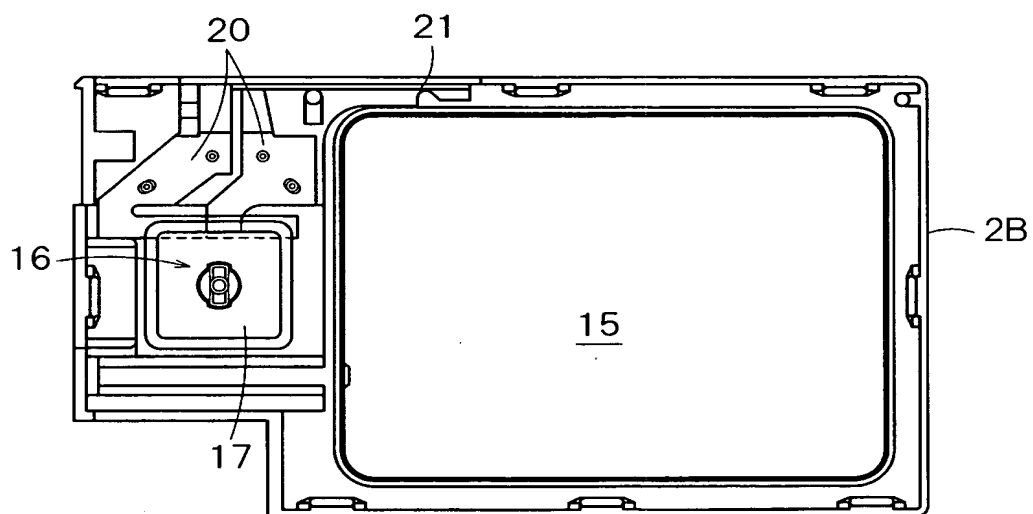
【図 5】



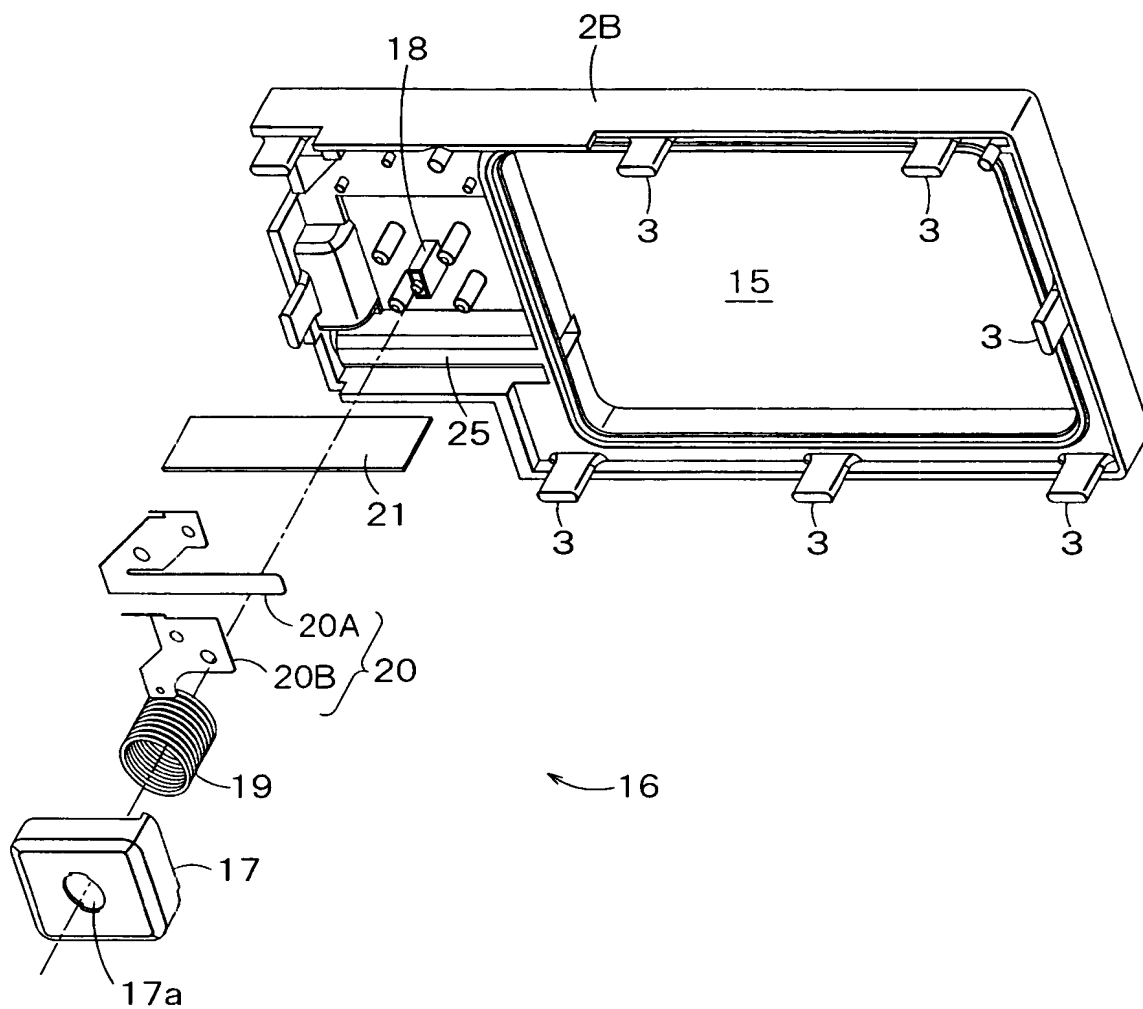
【図 6】



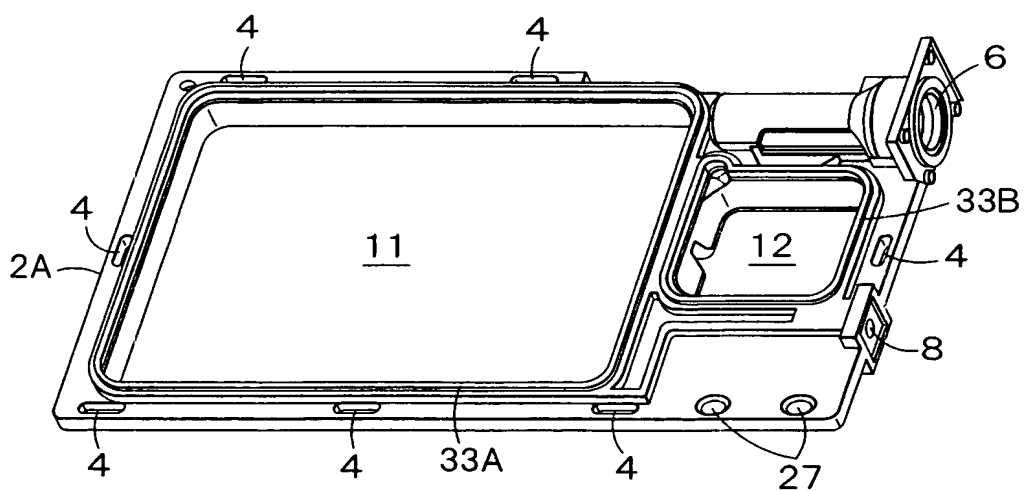
【図 7】



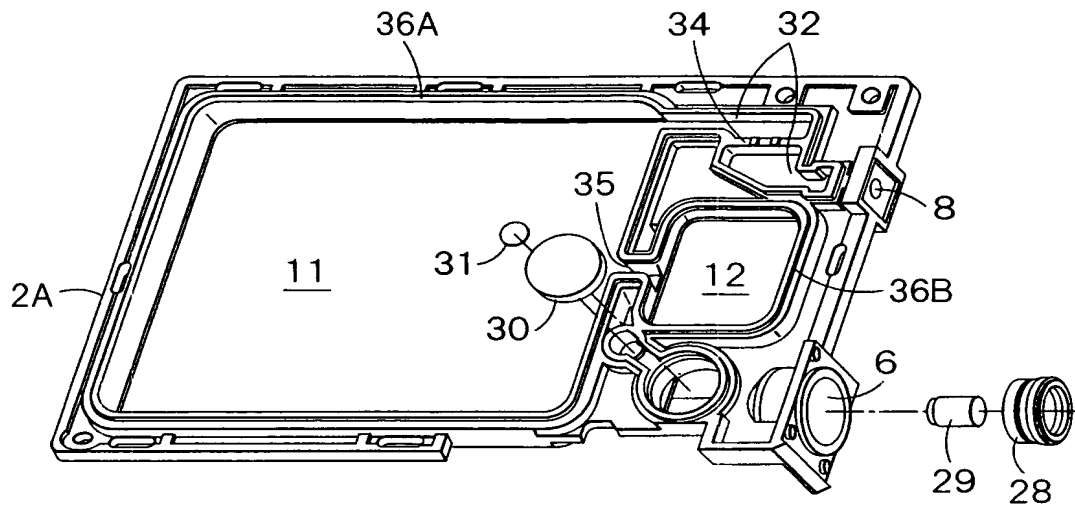
【図 8】



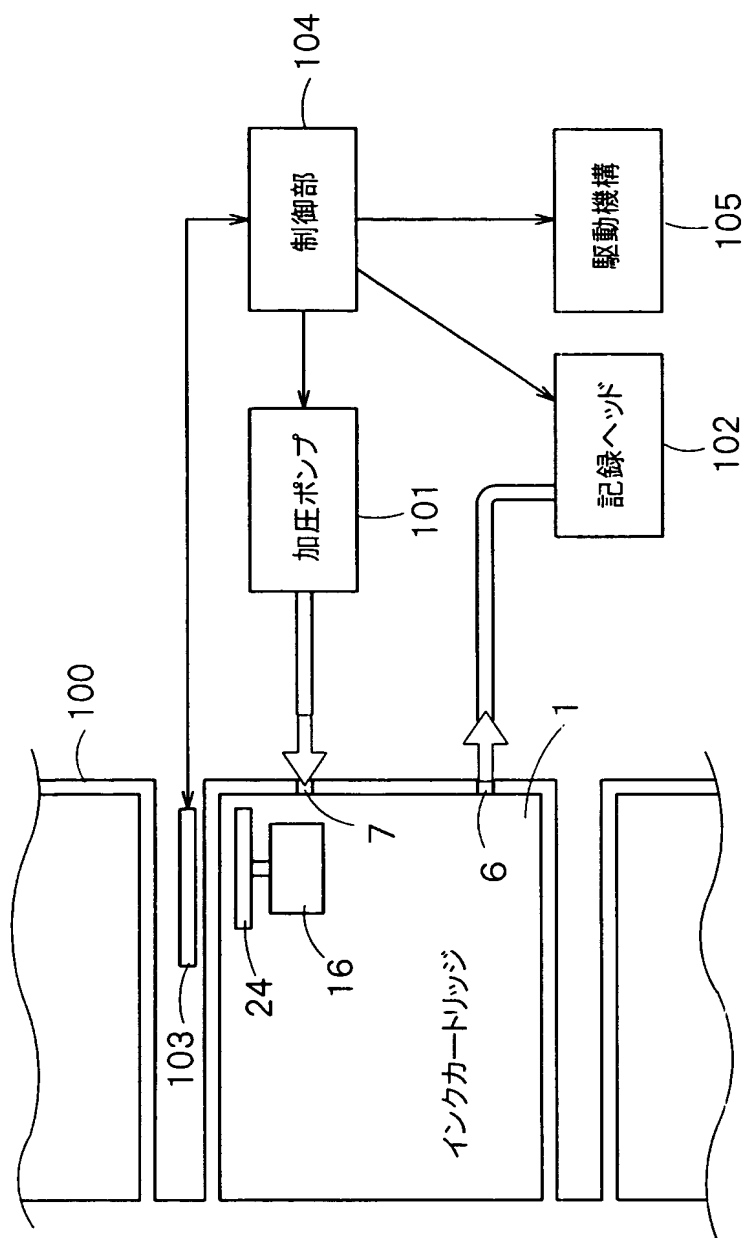
【図 9】



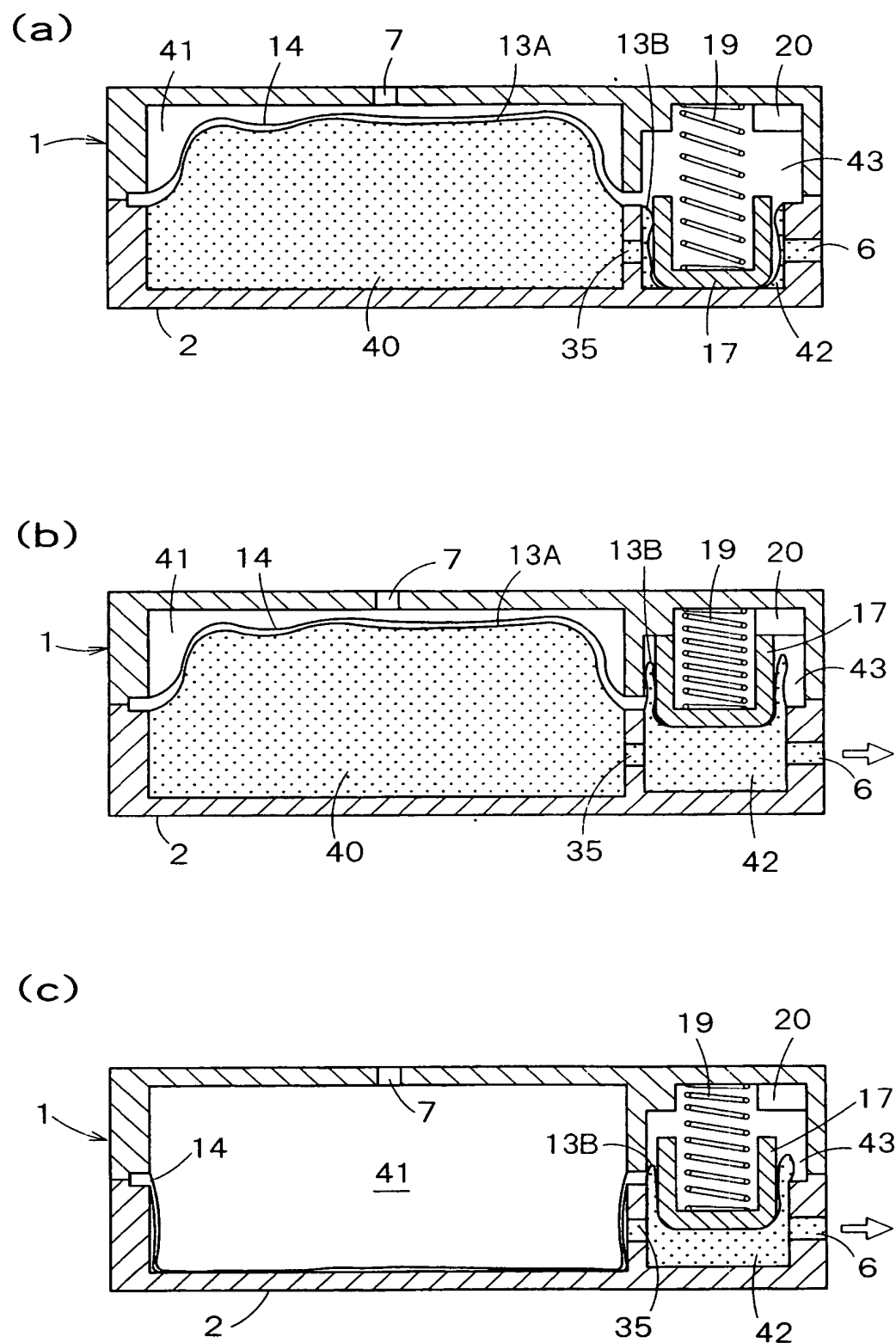
【図 10】



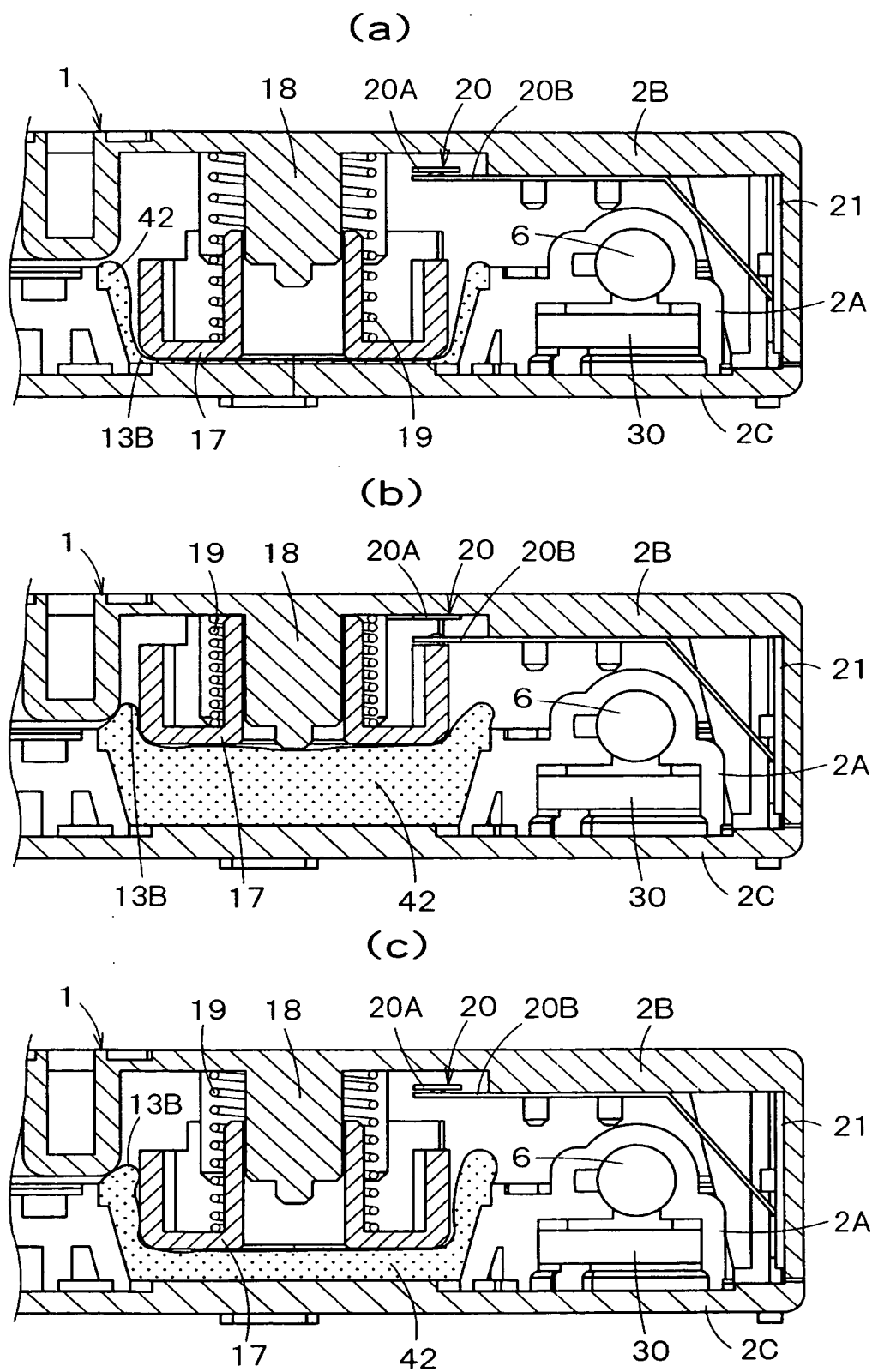
【図 11】



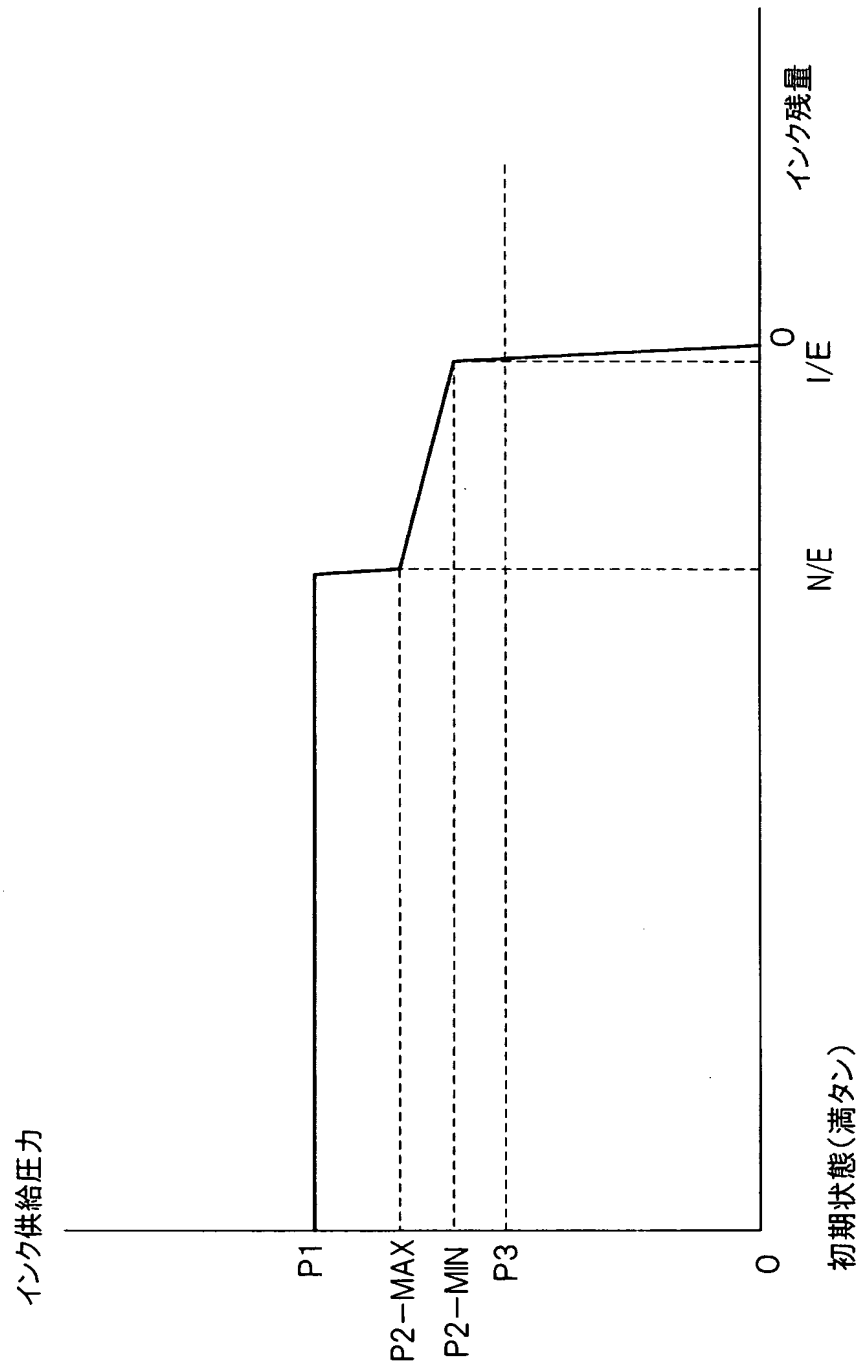
【図 12】



【図13】



【図 14】



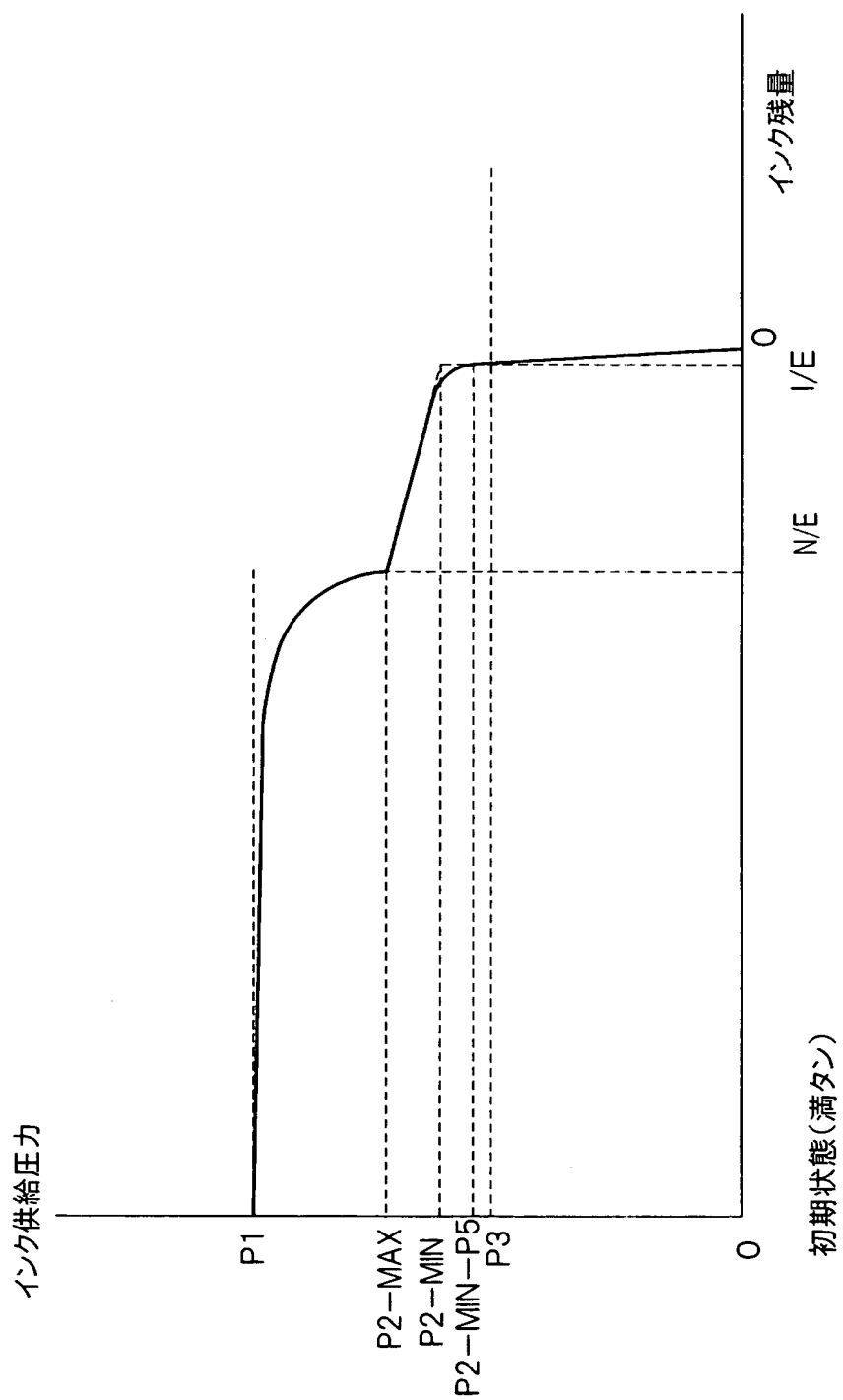
【図 15】

検出手段のON/OFF		
	インク有り	インク無し
加圧ポンプ 作動	OFF	ON
加圧ポンプ 停止	ON	ON

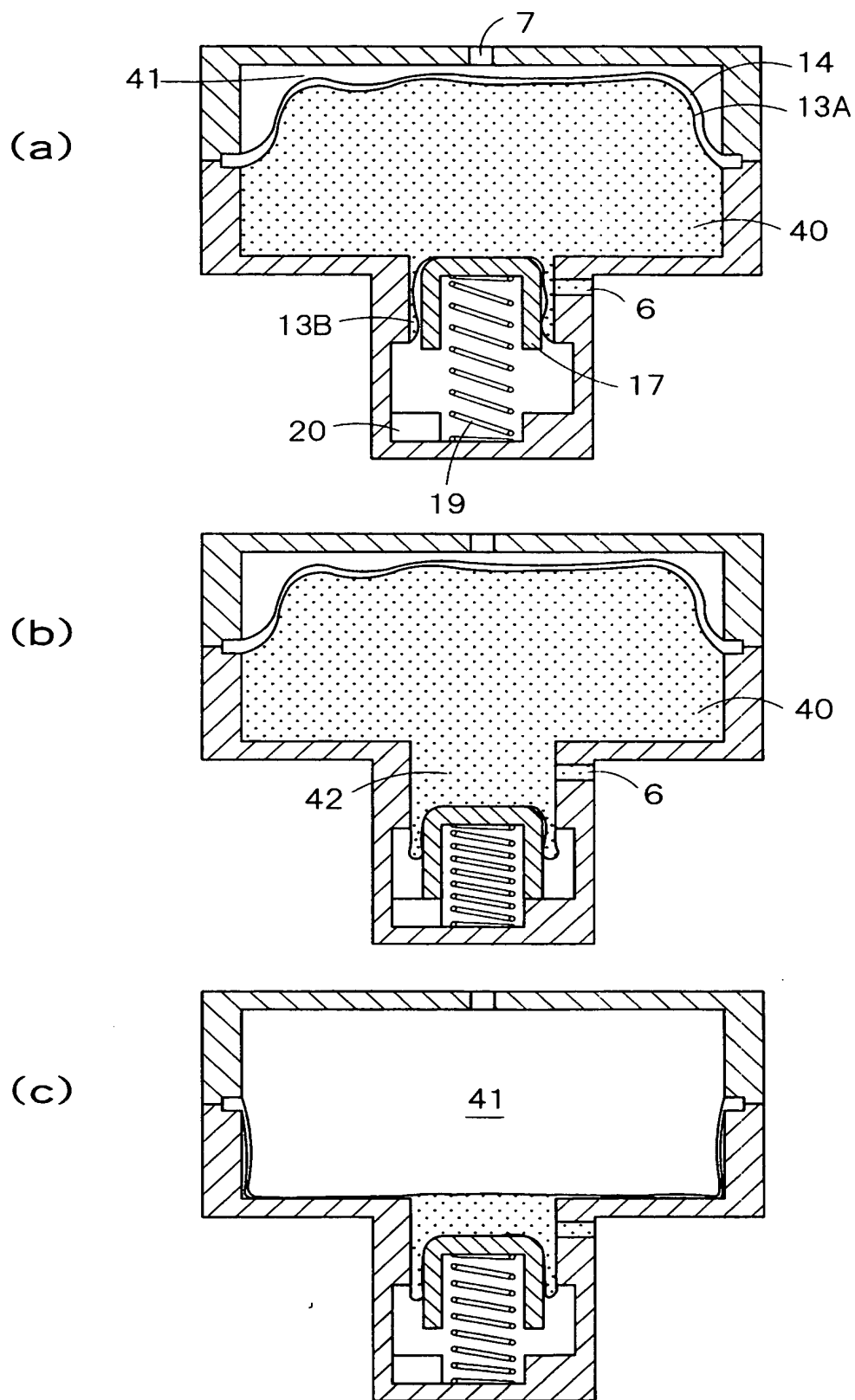
「インク有り」：インク収納室内のインク残量が所定値以上

「インク無し」：インク収納室内のインク残量が所定値未満

【図 16】



【図 17】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 容器内部の液体が加圧流体によって実際に加圧されているか否かを判定することができる液体容器を提供する。

【解決手段】 本発明による液体容器は、第1貯留室11と、第1貯留室11の壁を構成する第1可撓性フィルム13Aを含む第1加圧手段13A、14と、第1貯留室11及び液体送出口6に連通し、第1貯留室11内の液体に加えられた加圧流体の圧力が液体を介して内部の液体に伝達される第2貯留室12と、第2貯留室12内の液体を加圧する第2加圧手段17、19と、第2貯留室12内の液体の圧力変化に応じて出力信号が変化する検出手段16と、を備える。第1及び第2加圧手段によって第1及び第2貯留室内の液体に加えられる圧力を P_1 、 P_2 、液体容器から液体消費装置に至る液体流路における圧力損失を P_3 とした場合、 $P_1 > P_2 > P_3$ である。

【選択図】 図3

特願 2 0 0 3 - 1 6 0 6 8 5

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 2 3 6 9]

1. 変更年月日	1 9 9 0 年 8 月 2 0 日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都新宿区西新宿 2 丁目 4 番 1 号
氏 名	セイコーエプソン株式会社